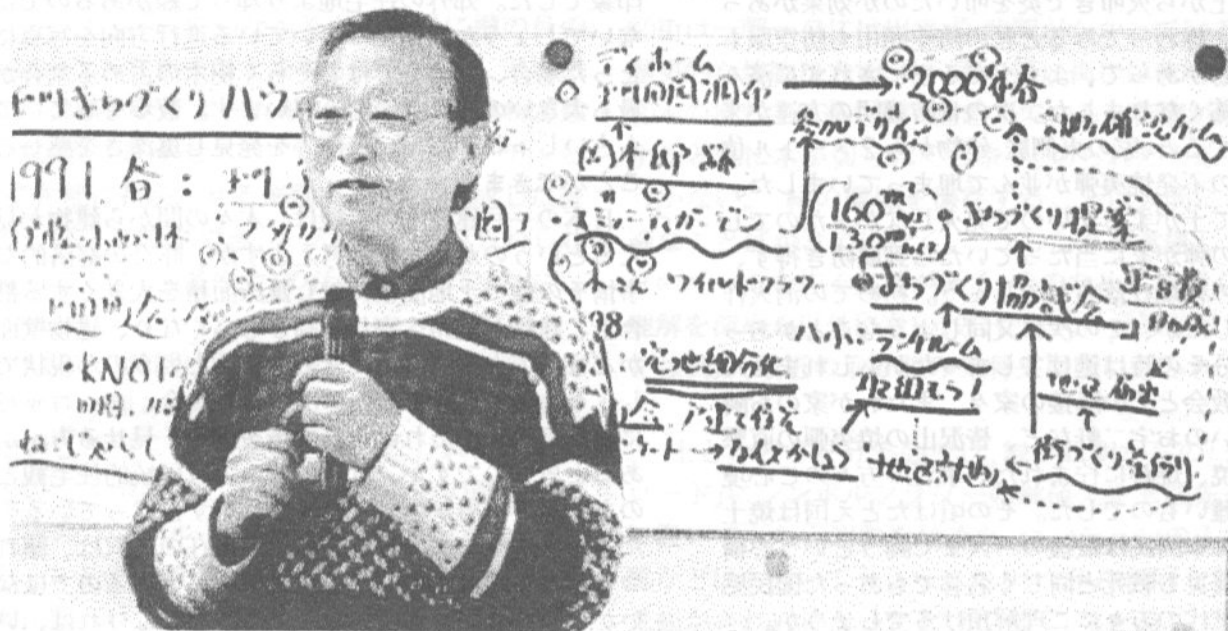


CONTENTS ◆新春のつどいレポート (1, 3, 4面) ◆おくさわ今と昔
◆秋のつどいⅡ まちなみウォッチングレポート ◆グリーンサムのお庭拝見
◆ありがとうございました ◆会からのお知らせ ◆土地の動き情報

新春のつどいレポート

スペシャルゲスト、玉川まちづくりハウスの
林 泰義さんをお迎えして



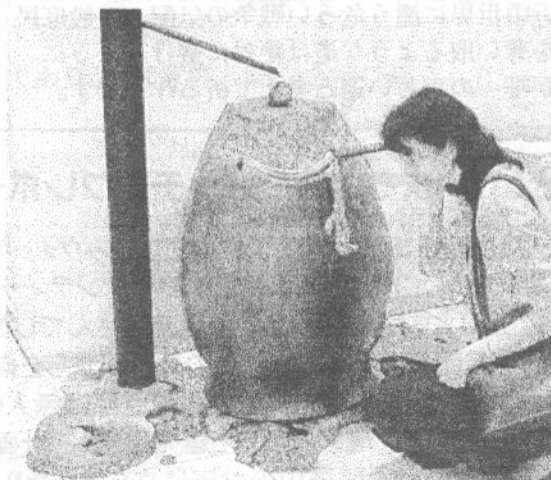
「土とみどりを守る会」では、去る1月27日に恒例の新春のつどいを開きました。会場の奥沢東地区会館には、22名の参加者が集まり、街づくりへの思いを語り合いました。会場には水琴窟が設置され、心安らぐ自然の音楽を楽しみながらの楽しい集まりとなりました。

第1部は、全国的にも注目を集めている隣町、玉川田園

調布での街づくり活動の経験を学ぶために、「玉川まちづくりハウス」の仕掛け人である林泰義さんをお迎えしてお話をうかがいました。林さんには、「玉川田園調布も奥沢も問題は一緒なので、今後情報交換をしていっしょにやっていると良いと思います。」とのご挨拶をいただきました。(この続きは3面に)

水琴窟について

水琴窟(すいきんくつ)は江戸時代から伝わる日本古来の音風景のひとつで、手水鉢から流れる水を地中に埋めた瓶に導き、その水滴から響く深遠な音を楽しんだものです。高度経済成長期に忘れ去られていたものが最近になって再発見されました。とりかこむ環境の全てに配慮をしないと不思議といい音が出ないもので、聴く人の気持ちによっても音が変化します。三島の水琴窟師に秘伝を教わり、制作した水琴窟を移動可能な形にし、オフィスビルのロビーとか身近な空間に置いてみる実験をしています。いずれ、奥沢のどこかにも設置してみたいと考えています。(堀内)



おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。

奥沢の空襲 (その2)

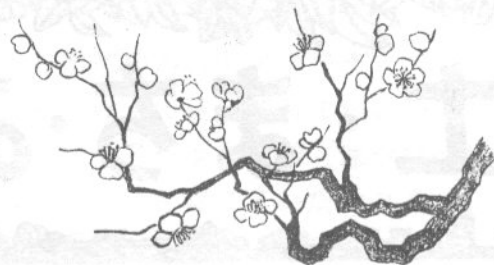
奥沢2丁目 黒井眞器
(旧姓 中島)

二階へ行く階段の床に焼夷弾が突き刺さって高い天井へ向けて火を吹いているので、階下からバケツで水を運んでぶつけてみても、火は上へ上へと燃え広がってゆきます。それでも必死で母と交替しながらバケツの水をぶつけました。もう駄目と思った時、ふっと急に火勢が衰えてどうやら消し止めることに成功、父が屋根へ昇って上から火叩きで炎を叩いたのが効果があったのでした。終わってみると私の防空頭巾も防空服も沢山の焦げ跡があって、よく火だるまにされずに済んだとあとで怖くなりました。次の日防護団の方達が来られて調査すると、家の東側庭、建物から2メートル位の所に八発の不発焼夷弾が並んで埋まっていました。畑に置いて土が柔らかいので発火しなかったのです。これ等の弾が家に当たっていたら到底防ぎ得ず、わが家もその夜焼け落ちたでしょう。初めての消火作業で夢中でしたが、その次に又同じようなことがあったなら、多分その時は逃げてしまったかもしれません。その夜奥沢教会とその隣接の家々、またわが家のお隣り、筋向かいのお宅二軒など、皆沢山の焼夷弾の直撃を受けて全焼、焼跡に佇まれた当事者の方々のご心境は推し量り難いものでした。その頃はたとえ国は焼土と化しても日本国民は最後の一人まで闘うという心構えでした。罹災も戦死と同じく名誉でもあった国民感情を昨今の世代の方々にご理解頂けるでしょうか。

そして東京の大空襲は5月25日で終わりました。以後は地方都市が次々と空襲を受け、広島・長崎に原爆が投下されます。8月15日の玉音放送はその内容を耳を疑う思いで聞きました。ゲートルを巻いた父が縁側に腰かけて言葉なく、身動きもせずにいる姿が鮮明です。

階段と天井が真っ黒に焦げていたのを度々修理しても雨漏りが治らず、長い間に度々手を加えやっとこの頃は無事、そして文様のような焦げ跡も歳月と共に薄れて来ました。何しろ毎日昇降して踏む場所ですから。

そして近頃世界に漂う危うい戦争の気配、一般庶民から平和を奪い取るような道は絶対に避けるように。それだけが唯一の正しい道と考えて祈る昨今です。



奥沢の街について思うこと

奥沢2丁目 岡野 健二

奥沢に住むようになって5年程経ちましたが、立派な樹木が多く落ち着いた雰囲気のある街だというのが第一印象でした。郊外の住宅地より却って緑があるのではないのでしょうか。例えば歩いている進行方向を写真にとった場合、画面上ではおそらく樹木の占める割合が最も大きいのではないかと思います。散歩をしても古いしゃれたお宅、装飾等を発見し奥深さを感じることができます。

日本の一戸建住宅の景観は、木々の間から建物が見えるというのが基本だと考えますが、昨今の経済的な事情その他で土地面積に対し延床面積を大きくする都合上、建物が道路へ寄り、高さも高くなり、建物壁面がどうしても前面に出てきてしまうというのが現状でしょう。建築の壁が前面に出てきた場合、ヨーロッパにおけるようにそれはそれで街を美しく見せる方法があると思うのですが、日本においては伝統的住宅観とのあいだで矛盾が生じ、どちらつかずになっているのだと考えられます。しかしながら現在の奥沢は、壊れつつはあるが日本の住宅の伝統を保っているのではないかと思います。とはいえこれも何もしなければ、いずれなくなってしまうものなのかもしれません。

私は以前、仕事の関係でドイツに住んでいたことがありましたが、そこでは街の環境を保つために、かなりの努力がされているということを感じました。例えばある直径以上の樹木はすべて登録されており伐採は禁じられています。やむを得ず伐採する場合は、所定の金額を支払う必要がありました。また、都市計画上、建築物の高さが決められている部分では、たとえその高さより低くても計画は許可されません。あまり厳しい規制は日本的でなく、奥沢のような住宅地にはそぐわないと思いますが、ソフトで皆が協力できる規範は是非必要であると思っています。

秋のつどいII まちなみウォッチングレポート

11月17日に、玉川田園調布2丁目のまちなみウォッチングを行いました。まちづくりハウスの事務所になっている小西さんのお宅が、丁度人気テレビドラマ「アンティーク」のロケに使われていて、見物人が来るということでした。ご案内役は玉川まちづくりハウスの小西玲子さんでした。玉川田園調布の街並みは、奥沢2丁目とはまた違う「まちの醸し出す雰囲気」があって、この個性がまちを作る基礎になるものと思いました。

一時、忌まわしい事件で話題になった織原邸は無人のようでしたが、庭の大樹の緑はまちの風景に大いに貢献していました。大きい敷地を分割した建売住宅も、計画確認作業の成果で、良い形に配分されて建っていました。途中、庭先でバザーを開催中のお宅に立ち寄り、秋の日和に楽しく収穫の多い散歩でした。(柳島)

新書のつどいレポート

林泰義さんのお話から

1991年の春、玉川浄水場の上部を公園にするコンペに地元から応募しようということから、3人で「玉川まちづくりハウス」を立ち上げた。その案は次点で当選に至らなかったが、運動を通じて町会の代表者や様々な会のメンバーと知り合った。次に九品仏の裏にある「ねこじゃらし公園」を作る時に公園作りのネットワーク作りを呼びかけたら50人以上も集まり、デザインゲームなどでアイデアを出し合った。こうして「まちづくりワークショップ」の方法を使うことで輪が広がった。この方法は、①参加者の知恵を広く集めて活用できる、②役所などの行政と住民の協力関係ができる、などの利点があった。

こうした経験から、街づくりの大切な点は、施設や建物が出来ることよりも「人のつながりが街の中に網の目のように出来る」ことであることを学んだ。次に、玉川田園調布の岡本邸跡にデイホーム玉川田園調布の建物が建つ前に、敷地に花を咲かせてコミュニティーガーデンとした。この空き地に花咲かせる運動は、建物が完成した後にも建物の一部として息づき、ネットワークがじわじわと蓄積されることで「楽多の会」の活動へとつながった。

そして、林さんのお話は開発業者による宅地の細分化を防ぐための取り組みに進んだ。町会でアンケート調査を実施したところ、その問題を何とかしなければならぬと考えている人が多いことがわかり、町会の呼びかけで八幡小学校のランチルームに集まり懇談を重ねた。何をやったらいいのかを話し合った結果、世田谷区の街づくり条例に基づいて「地区計画」を制定すれば誘導できることに気づいた。区も「地元がしっかりやるなら応援する」というので、まず、街づくり条例に基づく「街づくり協議会」をつくった。区は街づくり協議会の運営の費用を助成する。(年上限50万円)「宅地はある面積以下に細分化しない」など、細分化に歯止めをかけるための「街づくり提案」を作成し、法で定める80%以上の住民の賛同を得た。提案を受けて区が調査を行い、2000年の春に「地区計画」が成立した。その後は「計画確認チーム」を作り、現場で確認作業をしている。さらに建設の過程では、騒音、振動、工事による被害などの苦情を業者や家主の間に立って交渉もした。

最低敷地規模を160㎡以上、130㎡以上の二種類としたので、70㎡～80㎡に細分化される動きは止まった。しかし、細分化を防ぐだけでは敷地内のみどりは残せない。そこで「街づくり協定」で緑を残したいとうたってあるが、現実にはこれが十分に機能していない。アメリカでは古い建築物を買い取ってその家を使う人に転売し、千百軒もの家を守った、アドラーさんの活動もある。それには一定の資金が必要になるのだが・・・

近藤泰夫さんのお話から

続いて地元の建築家の近藤泰夫さんからスライドを使っての、奥沢の街並みの解説があり、古い趣のある建物、大きな樹が作る街の素晴らしい景観などが、次々と映しだされた。四つ辻の角を使った緑の保存、三軒が同じ植え込みを共有する家、門や壁を作らないで通りからオープンに玄関に続く空間、庭の駐車場も車輪の通るところ以外を芝生にする工夫などの例を次々に紹介。こうした素晴らしい街並みに多くふれ、良いものを見て学習し、その目で自分の家を見直してみることが必要であり、また、大切な緑を残すために特別な工夫がされている具体例も示された。①住まいと街をつなぐものとして塀、植え込み、門、入り口、車庫などが街並みを作る。②街は一朝一夕には出来ず、時間がかかっている。樹木や歴史的な建物は大切、古い家の無い街には味がない。③木の持ち主に落ち葉で迷惑していると苦情が集中する。すると急に木が切られてしまう。切られたら取り返しがつかない。緑の環境を保存することは人間にとって快適なことばかりではなく、こうした点を考慮して街づくりのルールを作る必要がある。そのためには関心を高め、理解を深める以外にない、と、住む人の意識改革の重要性を強調し、最近の取り組みや将来展望にもふれました。

土とみどりを守る会では、緑が丘駅からの「グリーンロード」にシンボルフラワーの鉢植えを玄関先や道路脇に置いてもらう運動を始めた。マンションの入り口の両脇などにも置いてもらっており、一年に何回も花が咲く。景観がきれいになっただけでなく、花を通じて街の人々の会話も生まれている。そして、今後の運動としては、街の推奨樹木や、推奨建築物をリストアップして保存につなげたい。推奨の理由を持ち主に知らせることで、その価値を知って大切にし、保存に努力してもらい、また、推奨物に看板や解説を付けて街の多くの人に知ってもらうことも大切だと思う。

“奥沢らしさ”を時間をかけて作っていくのが街の歴史で、そうした点で玉川田園調布の教訓を生かしたい。協定の文章化は簡単だが、大切なのは住民一人ひとりの心がけであり、参加意識と関心と呼び起こしたい、と結びました。



チェリーセージ
(シンボルフラワー)

吉田さんのお庭へGO!

6月にもなるとルコウソウに真紅な花が咲き、道行く人々の目を魅きつけます。ルコウソウと言えば「ああ、あのお宅ね」と言われる程。種まきが遅れた年には「今年はルコウソウ無いのですか? 来年はお願いします」など期待の込められた声がかかるそうです。

奥沢2-37のお庭で、春には蝶が舞い夏にはしおからトンボも飛び交うとか。都会のオアシスとも思える庭の主は、自然大好きな吉田明子さんです。奥沢の自然と共生しているかのような笑顔は陽光のもと、キラキラと輝いておられました。

やがて蝶になるあお虫に用意する食物は、“ダイダイ、ナモアガシ、イモアガシ”とつぶやきなが

ら用意する吉田家のお雑煮の具の小松菜を根に2~3cmの茎をつけ土に戻して育てたもの。トンボに関しては、プラスチック容器(深さ15cm位、大きさ40cm程)で睡蓮を育てていたところ、いつ頃からかヤゴが現れ、トンボは再びそこに卵を産みつけました。藻が発生しても、雨で水があふれてもかまわない。それでもボウフラは見当たらないとか。奥沢の町そちこちで蝶やトンボが飛び交う光景に出合えたらどんなに楽しいことでしょう。ちなみにダイダイのダイは大根で家代々の意。ナモアガシのナは名誉。イモアガシのイは位を表すかけ言葉のようです。目出度い小松菜を食べて育ったあお虫はどんなに素敵な蝶になるのでしょうか。(杉村)



会からのお知らせ

- 春のつどいは、奥沢のすぐれた街並みをつくっている建物や樹木をウォッチングします。4月20日(土)は4丁目と5丁目(自由通りと東横線の間の地域)を、6月8日(土)には1丁目と3丁目を歩く予定です。くわしくはチラシでお知らせします。
- 土とみどりを守る会では、毎月定例会を開いています。会の趣旨にご賛同下さる方、ご意見をお持ちの方、得意分野でお手伝い下さる方どうぞご参加ください。
- 各欄への投稿記事を募っています。ご面倒な方には、こちらからインタビューに伺います。カット・イラストもお寄せ下さい。また、記事に関するご感想・ご意見をお聞かせ下さい。
- 土とみどりを守る会では、ガーデンシュレッダー(せんてい枝粉碎機)を貸し出しています。落とした枝をチップにしてお庭の土にまいたり肥料にできます。

新春のつどいレポート

参加者との懇談から

林さんのお話として、玉川田園調布では、クラシック音楽の鑑賞会を毎月、自宅を開放して集まって聴くという話など、暮らしの中で様々な深い知識を持つ人々がつながって、その知識を集めて問題を解決する。これを“地域力”という話がありました。参加者からは、近所と年齢を超えて知り合いになった話や、“一本の桃の木”に通じかかると語りかけ、花の開花を喜び、枯れた木を励まし、桃の木の持ち主にまで声をかけてきた話もありました。一本の桃の木が多くの人々の心に住み着き、安らぎを与え、心に花を咲かせ、豊かな心をはぐくんでいる。これを知ることこそ“土とみどりを守る会”の街づくりの原点だと確認したこの日の集会でした。

ありがとうございました

通信5号でお願いしたチェリーセージの鉢植えを、12月にグリーンロード沿いのお宅に持参しました。お世話を引き受けて下さった皆様にあつく御礼申し上げます。水やりなどお手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。お訪ねした時にいろいろお話ができたことも私たちの励みになりました。春になったら挿し芽をしてまた鉢を増やし、他の道にもお配りする予定です。鉢を置いて下さる方のお申し出があればまっ先に持って参ります。会の連絡先にお電話お待ちしております。(遠藤・立花)

土地の動き情報

- 奥沢2-45の土地は、70㎡~77㎡に分割されて8棟が建つ予定で、只今工事中です。
- 2-19-8の土地は、2分割となり建築中です。

編集後記

ことしの冬は暖かくて梅の開花も早く、歩きながら摒越しに梅の花を眺めて楽しんでいます。やがて沈丁花の香りが漂い、柔らかな芽ぶきの緑が美しく—自然の移ろいをこのまちでいつ迄も感じられるように願っています。

土とみどりを守る会 連絡先

奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
奥沢2-41-2 柳島尚子 3718-8558